



総務省

Ministry of Internal Affairs  
and Communications

## 地域人材ネット

### 滞在交流型の観光と地域づくり及びツーリズム

坂元 英俊 ( さかもと ひでとし )

一般社団法人 地域観光研究所 代表理事

## ○ 登録者情報

### 所在地

熊本県熊本市

### 略歴

1979年 (財)日本農業土木総合研究所研究員  
1998年 (財)星のふるさと専務理事(平成10年～平成12年)  
2001年 (財)阿蘇地域振興デザインセンター 事務局長(平成13年～平成23年)  
2012年 (株)マインドシェア(平成24年～平成27年)  
2016年 (社)島原半島観光連盟専務(平成28年～平成30年)  
2019年 (社)地域観光研究所 代表理事 みちくさ地域づくり観光プロデューサー(平成31年～現在)  
2019年 アイロード(平成31年～現在)

#### 登録歴

2002年 地域振興アドバイザー(平成14年～平成22年)  
2002年 熊本県地域づくりコーディネーター(平成14年～平成21年)  
2007年 地域中小企業サポーター(平成19年～平成20年)  
2012年 地域活性化伝道師(平成24年～平成26年)  
2011年 観光庁長官表彰 (平成23年)

### 著書・論文等

地域旅で地域力創造(第4章)(2011年4月:学芸出版)  
阿蘇ゆるっと博公式ガイドブック(2011年1月:ウルトラハウス)  
阿蘇遺産(2003年6月:(財)阿蘇地域振興デザインセンター)  
滞在交流型観光戦略と阿蘇カルデラツーリズム(2013年1月:静岡企業研究所)  
東北12の物語(2014年3月:観光庁)  
サステナブル・ツーリズム国際認証熊野フォーラム記録集(2015年1月:日本エコツーリズムセンター)  
サステナブル・ツーリズム国際認証尾瀬・片品フォーラム記録集(2015年10月:日本エコツーリズムセンター)  
サステナブル・ツーリズム国際認証秋田フォーラム記録集(2017年2月:日本エコツーリズムセンター)  
サステナブル・ツーリズム国際認証島原半島フォーラム記録集(2017年11月:日本エコツーリズムセンター)  
サステナブル・ツーリズム国際認証東京フォーラム記録集(2018年11月:日本エコツーリズムセンター)  
観光地域づくりと滞在交流型観光の取組み(2017年11月「都市計画329号」:日本都市計画学会)

## ○ 滞在交流型の観光と地域づくり及びツーリズム

### 取組の内容

自然・歴史・文化を体感するエコツーリズム、農村で時間を過ごすグリーンツーリズム、温泉街・商店街を楽しむタウンツーリズムを阿蘇郡市(1市7町村)の32の地域で展開、それらを総合した阿蘇カルデラツーリズムと広域的な公共交通網を組み合わせた「スローな阿蘇づくり」を推進し、熊本県、市町村行政、観光協会、温泉旅館組合、商工会などの各種団体、民間の人々との協働で滞在交流型観光のしくみづくりを進めながら、人づくり・地域づくりを行ってきました。2011年3月の九州新幹線鹿児島ルート開業時から2012年3月までの1年間は、8年の歳月をかけて作り上げた仕組みを活用して、博覧会形式の広域連携プロジェクト「阿蘇ゆるっと博」を開催しました。2012年4月から地域づくり型観光のシステム化を継続的に取り組まれています。また、世界最大級のカルデラと今でも活動する中岳火口を中心にした地形・地質と阿蘇神社の歴史・文化で阿蘇ジオパークに取り組み、日本ジオパークに認定され、以後、世界ジオパークネットワークをめざした取り組みも進められています。2011年10月には、地域づくりと観光を統合化した滞在型の観光戦略と九州の観光振興に寄与した功績で、観光庁長官表彰を受けています。また、2011年9月から2015年は東日本地震後に東北六県の観光地域づくり、日本でのブランド観光圏づくりのアドバイザーを観光庁から依頼、2015年～2016年は京都府海の京都観光圏の立上とアドバイス、2016年～2018年は、島原観光連盟(島原市・雲仙市・南島原市で設立)の専務として新たな事業を創出、2019年からは地域・九州・日本の観光と地域ツーリズムの融合実践と研究のため地域観光研究所を設立し活動中です。

## 実績

32の商店街や温泉街・農村集落で、観光地域づくりとツーリズムを根付かせ、魅力的な地域づくりや商品開発と人づくりを行うことで人が訪れる地域にしてきました。特に、阿蘇市の門前町商店街を例にとれば、平成10年の熊本県の熊本日日新聞で、消えゆく灯として紹介された商店街。2002年から、地域づくりとタウンツーリズムを進め、売れる商品作りや夏は木陰を作るために店の敷地に木を植えるなどして、訪れるお客様がゆっくり商店街で滞在できる取り組みを行ってきました。商店の売り上げもそれぞれに5倍から10倍になり、空き店舗もなくなりました。ボランティアガイドによる阿蘇神社の案内や水基(き)めぐり、食べ歩き散策などのコンテンツも充実。現在では、平日でも観光客が集まり、連休ともなると店に入れず、1時間待ちになる食事処も現れ始めたことから、軒先の駐車場を木のテラスに改造して、食事の場所が作られたほどです。その結果、年間数千人から年間30万人が集まる商店街に成長しました。(2010年12月27日の日経ビジネスonlineでは、「消えゆく灯・なくなりかけた商店街が元気になる」というタイトルで、特集が組まれました。)内の牧温泉商店街や手野集落など各市町村の地域で成果を上げています。また、エコツーリズムなどの案内人組織を持つ団体の受け入れ人数は、教育旅行も含めて2002年度の3万人から2011年度には10万人となっています。

## 工夫した点や苦勞した点

まず、地域住民が住んでる地域を好きになり、好きな理由を言えるようにします。自分の言葉で、地域の良さを言えることが、訪れるお客様への何よりの広報になるからです。もちろん商品開発や体験プログラム造成などの人材育成も必要です。その時に気をつけるのは、地域づくりを進める中で、人間的な成長も促すことです。取り組む成果に温度差ができてくると、足を引っ張ったり、批判や非難をしたり、マイナスな噂話などを広げるからです。地元住民が、お客さまのために工夫したり、頑張った苦勞がお客さまにも伝わり、評価して戴くことが何よりも嬉しくなるような地域づくりをめざしてきました。

## ひとことPR

観光名所や温泉、食事処などに転々と立ち寄る「スポット通過型観光」が主流の時代。これからは、地域特有の多様な風土や文化、自然の活用と温泉街や商店街、農村集落など暮らしに育まれてきた魅力を掘り起こし、地域側がネットワークを組み、「滞在交流型観光」の仕組みを作ることが必要です。とくに地域のDNAを掘り起こし、コンセプトに基づいた地域の魅力の発信を地域住民が率先して行うことです。旅館や農家民宿に泊まり、地域の人々との交流のなかで、食べる、買う、体験等を楽しみながら、感動を持ち帰る観光地域づくりは、住んでよし、訪れてよしの国づくりです。

## ○ 参考

### 取組の分類

地域人材ネットでは、登録者の取組を11の政策分野に分類しています(複数の分野に該当するものもあります)。

	1	地域経営改革	○	7	まちなか再生
	2	地場産品発掘・ブランド化		8	若者自立支援
	3	少子化対策		9	安心・安全なまちづくり
	4	企業立地促進		10	環境保全
	5	定住促進		11	その他
○	6	観光振興・交流			

### 関連ホームページ

(財)阿蘇地域振興デザインセンター	<a href="http://www.asodc.or.jp/">http://www.asodc.or.jp/</a>

### 連絡先

メールアドレス		その他	
---------	--	-----	--

※メールを送る際には[アットマーク]を『@』に変えてください。

戻る